

# 季節風

2015.10.21  
No.23  
山鹿市立鹿北中学校  
文責：郡 一路

## 熊本県人権教育研究大会

十七日(土)・十八日(日)の二日間、阿蘇市の各会場にて人権教育研究大会が開催されました。私は、進路保障の分科会に参加しました。有明高校、小国中学校、豊野小学校の各先生のレポート発表と質疑、協議の柱に沿っての意見交換を行いました。どのレポートも児童・生徒への丁寧な、そして、継続したかわりによって、先生、児童・生徒、学級集団が変容し、「なかま」としてつながっていく様子が報告されました。

小国中学校のレポートからは、保育園の先生、小学校、中学校の先生と継続したかわりの中で被差別状況に負けずに力強く生きる生徒の姿が伝わってきました。また、地域の方が、「保・小・中の連携したかわり」ともに、一人ひとりの生徒が、いつか背負っているものと向き合い、それをおろす時、そこに『なかま』がいてほしい。」と語られた言葉が心に残りました。

様々な家庭環境の中で生活する生徒。その家庭に日夜足を運び、暮らしを見つめ、親の願いに接し、そこから教育を創ってきた職員集団。人権文化が学校にも、地域にも根付き、実践に結びついていくことに、あらためて感動しました。

## 山鹿市中体連 駅伝競走大会

二十日(火)、市中体連駅伝競走大会が開催されました。真夏の炎天下から大会当日まで、「もうきつい、あきらめようか、いやもう少し、もうだめだ、だけど頑張ろう!」様々な思いが交錯する中、自分とのたたかいの日々を送ってきた駅伝メンバー。本当にお疲れ様でした。

自分を、なかまを「信じて」、心と体を「鍛えて」、そして、その鍛えを通して自分を「磨き」、選手として走った人も、選手をサポートしてくれた人も、今までの努力の到達点まで頑張り抜くことができたことで、一人ひとりが、「輝いた」駅伝大会となりました。

ある実業団の長距離選手が、「真剣に走ることは、真剣に自分と向き合うこと」と言っていました。時には弱い自分と、また時には挑戦する自分と向き合い、また、あると

きは、逃げ出そうとする自分が見えたり、さらには、昨日の自分を乗り越えていく強さを見つめたりと、たくさんの様々な自分との出会いがあるのが駅伝であり、馬拉ソンということだと思います。そして、そのことは、人の生き方、人生にも通じるものがあります。晴れの日もあれば、雨の日もあるけれど、いろいろな状況の中でも、希望や目標を見失うことなく、時には立ち止まりながらも、一歩ずつ前に進む。まさしくみんなが今まで頑張ってきたことと同じです。



選手をサポートしてくれたメンバー



今まで頑張ってきた自分を支えてくれた、たくさんの方々があります。感謝の気持ちを大切に、そして、その気持ちを伝えられる人に!